H22 年から H23 年活動報告

（平成 22 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

（特非）NPO みなとしほがま

古文書部会・歴史的建造物部会活動報告

この２年間の主な活動内容をご報告します。なお、ボランティアガイド部会、岩蔵部会等との協力の下で事業を実施しました。

１．古文書定例勉強会

東北学院大学斎藤善之教授のご指導のもと、週１回の勉強会を続けている。震災後は一時中断したが、被災状況の巡視を目的とした街歩きから再開。現在は斎藤教授のご指導により、『塩釜町方留書』の翻刻を行っている。

２．鈴木家の保存活動

海岸通の鈴木家は、「仲忠」との屋号で知られ、本市水産界を代表する老舗の一つ。同家が津波被災により解体されることとなった。当 NPO として、同家が水産業界で果たしてきた役割や、同家の建築学的価値を、東北学院大学斎藤善之教授、東北工業大学高橋恒夫教授に分析いただき、本市にとって極めて貴重な建造物であることを確認した。これを受け、同家の枠組みを再建可能な形で保管している。

３．鈴木家文書類のデータ化活動

上記鈴木家からは、同家が本市の水産業界で果たしてきた役割を物語る多くの資料が提供された。これらを斎藤善之教授の指導のもと、デジタルデータとして保存した。

４．市川旅館の神棚の保存活動

同旅館には極めて大きな神棚が祀られてきたが、震災により建物と共に解体されることになった。同家は本市の江戸時代の繁栄を伝える家柄であり、その遺構として、搬出、保存している。

５．今忠文具店の屏風下張文書・八百大佐藤家文書の保存

今忠文具店の蔵に所蔵されていた古い屏風は震災により廃棄されることとなった。下張には弘化の年号が記載された文書などが使われており、斎藤善之教授の指導の下、一枚一枚剥がしてデジタルデータ化し、保存した。また、八百大佐藤家からも江戸時代の文書が提供され、デジタルデータ化し、保存した。

６．『写真集　塩竈　東日本大震災の記録』の出版

被災１年半という節目の平成 24 年９月 11 日付で、標記写真集を出版した。ボランティアガイド部会からの「記憶の風化を防ぐとともに、後世へ伝承したい」との強い要請を受け、斎藤善之教授の指導の下、第１刷 1500 部（10 月上旬完売）、第２刷 1000 部（10 月３日発行）を発行した。市教育委員会などへの寄贈も行った。出版に際しては多くの方々からのご協賛や、写真、資料の提供をいただいた。

７.『新釈　奥鹽地名集』の出版

平成２２年１２月２３日、『新釈 奥鹽地名集』を発行した。これは古文書部会の６年にわたる活動の集大成として、斎藤善之教授が監修され、古文書部会として発行したもの。江戸時代の塩竈が今に甦るとともに、塩竈を考える貴重な資料となっている。さらに、織り込まれた写真は東日本大震災以前の塩竈のまちの風景を残している。その後、塩竈市教育委員会ではこれを教材とした塩竈学講座を開催し、本会から３名が講師を務めた。

ボランティアガイドの会　活動報告

第９期のボランティアガイドの活動も順調に推移し、オフといわれる 12 月も休まず、ガイド活動を行っておりました。第９期が、当会にとっても飛躍の年となるべきときと考えていたまさにそのときに、東日本大震災が起きました。そして、その後数ヶ月、活動を続けられる状態ではありませんでしたが、2011 年６月より、なんとか神社の定例ガイドを復活しました。そして、少しずつガイド依頼も来るようになり、第１０期はガイド量も、ほぼ震災前の活動の状態に戻りました。

以前から、神社の境内だけでなく、「旅市」「駅長オススメの小さな旅」など、町歩きを組み込んだガイドなどにも取り組んできました。最近、特に感じることは、震災前と比べて、ガイドへの要望に変化が見られるようになったことです。ひとつは震災についてです。被災地として、塩竈を訪れた観光客からみれば、塩竈の現状を見て、「被害は少なかったのですね。」といわれます。殊更に被災の状況を強調したいとは思いませんが、浦戸の状況や、町なかの被災の爪跡をきちんと正確に伝えたいと考えていますので、もっと伝え方の工夫も必要と思います。また、塩竈についても、もっと知りたいとの声も聞きます。来期は「仙台宮城ＤＣ」の年でもあり、様々な切り口で「塩竈」の違った魅力を紹介していきたいと考えています。

1.主な活動内容について

（１）鹽竈神社境内のボランティアガイドの活動

毎週土・日の 10：00～12：00 まで、参拝客を対象に、無料にて実施しています。

平成 22 年 10 月　２日～ 平成 23 年９月 25 日　の　48 回

平成 23 年 10 月　１日～ 平成 24 年９月 30 日　の　76 回　　合計　124 回

概算で、約　2,400 名の方をガイドしております。

（２）イベントへの参加

① みやぎ街道交流会主催　震災復興フォーラム『奥鹽地名集』講演会＆観月舟

～東日本大震災復興にあたり～「『奥鹽地名集』から多賀城～塩竈～松島を考える」

講師／東北学院大学経営学部教授　斎藤善之 氏　及びボランティアガイド会員

日時　平成 23 年 10 月 10 日（月：体育の日）　13：30～17：00

場所　瑞巌寺・陽徳院（松島）　協力　多賀城史跡案内サークル、おくの細道松島海道

※　陽徳院の本堂において、上記フォーラムを開催しました。一般の方々を含め約 100 名も参加。フォーラム終了後は、松島湾内を船で一周、芭蕉も気にかけた満月を楽しみました。

② 復興！全国「塩」サミット in 宮城 塩竈　平成 23 年９月 25 日（日）11：00 ふれあいエス

※　ボランティアガイドの会として、協力・参加しました。

（３）その他のボランティアガイドの活動

①　第９期、10 期と玉川小学校３年生　55 名を神社境内や御釜神社などをガイドしました。

② ツアー客は、第９期は 85 回、約　1900 名、　10 期は 113 回、約　2300 名を神社境内を中心にガイドしました。

③ 旅市、駅長オススメの小さな旅、しおがまさまの月灯り、その他、多数のガイドに参加。

（4）その他の活動

① 亀井邸での常駐ガイド（生涯現役・世代継承型雇用創出事業）に当会からガイドを派遣しています。

② 南三陸での「沿岸部語り部ガイド等育成研修会」（宮城県主催）に当会より、２名が参加。

③ 新会員発掘のため、平成 24 年９月 15 日に神社境内においてボランティアガイド養成講座を開催。

京都駅ビル開業 15 周年記念

「下京・京都駅前夏祭り」参加について

京都の縁部会

平成 17 年より「ＮＰＯみなとしほがま」が中心となり、京都市下京区との交流活動を続けてまいりましたが、この夏、京都駅ビルからの要請で、当駅の開業 15 周年を記念し、８月２５日に開催された「下京・京都駅前夏祭り」に「ＮＰＯみなとしほがま」のブースを出店いたしました。

当日は残暑の中、菅原副理事長が激励のためお越しになり、京都駅ビルの職員の方々にも手伝っていただき、盛況のうちに塩竈のＰＲ活動を展開することができました。

特に下京区の皆さんには、塩竈との縁をよく知っている方が多く、これまでの活動の成果を体感することができました。

１．塩竈の物産販売

協力をいただいた塩竈を代表する「銘菓しほがま」や「浦霞」「男山」などの地酒、「さくらかつおのキーマカレー」などのシーフードを、展示、試食していただき、販売して、京都の皆さんにも塩竈のおいしさを味わっていただきました。

２．塩竈の風船の無料配布とグッズ販売

白寿殿の協賛と杜の都信用金庫の協力で、塩竈のロゴマークの入った風船５００個を無料で子供達に配布し、喜んでいただきました。また、独自に塩竈のユルキャラカンバッチを作成し、グッズ販売も試みました。

３．塩竈の歴史・風土
京都との縁をＰＲ

塩竈のパンレットを配布するとともに、パネルを使って塩竈の歴史や風土、京都との縁について解説、ＰＲを行い、京都の皆さんに塩竈への関心を持っていただきました。